

# ヘルスケーススタディー

## 花粉を避けることで予防 発症したら根気よく治療

### 症状と診断

### 今回のケース

鼻水と咳があり風邪のような症状ですが、熱はありません。

病名	花粉症		
年齢	35歳	性別	女性(日本人)

2年前の春先に来米し、しばらくして風邪のような症状で来院。鼻水と咳はあるが熱はなく、対症療法で一時的に収まったが、治療をやめると再発し、さらに目が充血し、咳、くしゃみ、鼻水が悪化して集中力が散漫となった。スキンケアを行った結果、ブタクサ、相橋系の草にアレルギー反応が見つかった。来米前は症状がなかったが、日本で杉花粉による感作(生体に特定の抗原の刺激があり、同じ抗原の再刺激に感じ



アレルギーが何かを調べる「プリックテスト」キット。

近代医療と代替医療、その他のヘルスケア、健康分野での具体的な症例に対する「症状」「診断」「治療法」「予防法」などを聞く

### 治療

やすい状態になることが続いた結果、来米後ブタクサによる感作でアレルギーを発症したと思われる。

### 予防と管理

れず、一時帰国の際には杉花粉のシーズンにもかかわらず発症しなかった。

花粉症の完治は難しいが、減感作療法で根本治療にかなり近い効果を上げることが可能。気の長い治療法ですが、始めた年から少しずつ症状が緩和されます」と中釜先生。

(手代木麻生)

### 中釜知則先生 (なかがま ともり)

プライマリーケア、産業/予防医学専門医。内科をはじめ、婦人科、小児科の診療を手掛ける。広島大学総合科学部卒業、セーバー医科大学卒業、イリノイ大学シカゴ医学部産業/予防医学科卒業。病氣やけがの予防に重点を置くアドバイスも行う。

抗ヒスタミン剤と経口ステロイドによる対症療法で症状を落ち着かせつつ、舌下減感作療法(原因となる物質のアレルゲンをごく微量ずつ舌下に入れて体を慣らし、過敏反応が起こらないようにする)を開始。2カ月後には症状の軽減が見られたが、次のシーズンに向け治療を継続した。その結果、翌年の花粉の季節には症状がほとんど見ら

ずつたまり続けていた水がいついばいになったときに急にこぼれ出すように、突然発症します」と中釜知則先生は話す。アレルギー体質など遺伝的な要因もあるが、誰でもかかる可能性がある。アメリカでは実行しにくいですが、花粉の季節にマスクやゴーグルを着用するのが効果的。また、家に入る前に服をはたいて家の中に花

### 診療所

日本クリニック  
15 W. 44th St. 10th Fl.  
(bet. 5th & 6th Aves.)  
TEL: 212-575-8910  
www.nihonclinic.com